


兵庫県森林動物研究センターシンポジウム発表内容に対するアンケート(複数回答可)結果と参加者のコメント

2011年2月27日

兵庫県立美術館ミュージアムホール

発表内容	関心アリの○の数	コメント
① 「出没及び被害の発生状況と対応」	37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害状況について分かりやすかった。</li> <li>・御苦労様でした。</li> <li>・写真、映像をたくさん使っていて、分かりやすかった。</li> <li>・棒読みで聞きづらかった。</li> <li>・情報が整理され良かった。</li> <li>・大変かと思うが牛の放牧を復活出来れば。</li> </ul>
② 「生息環境と堅果類の豊凶」	52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊凶の周期が分かり、熊の行動習性が分かっているならば、予防対策の措置を取ることができるのかな？</li> <li>・豊凶とクマの関係がわかりやすかった。</li> <li>・クマの生息しやすい環境(広葉樹林)が広がっているという話はとても驚きでした。</li> <li>・アラカシ、アベマキについてもデータが必要。カキ、クリは？</li> <li>・森林内の虫の影響も</li> <li>・豊凶の理由についての話がおもしろかったです。</li> <li>・なぜアカマツからコナラへ変わるのでしょうか。</li> <li>・ドングリ豊凶以外の要因も知りたかった。</li> <li>・だから、私達人間がドングリの木をもって植えて行くことを強く思う。</li> <li>・誤解の多い面を分かりやすく表現されていた。</li> <li>・捕食者飽食仮説の考え方がおもしろかったです。</li> <li>・クマのエサ不足＝針葉樹だからではない。</li> <li>・エサ環境の予測で出没対策が考えられないか。</li> <li>・大局的態度に好感できる。</li> </ul>
③ 「捕獲個体の栄養状態と繁殖状況」	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖についてわかりやすかった。</li> <li>・  このグラフ○</li> <li>・大変参考になりました。</li> <li>・豊凶年と出産の関係がよくわかった。</li> <li>・よく情報を収集されていた。</li> <li>・捕殺個体の剖検の必要性がわかりました。</li> <li>・凶作時と豊作での繁殖について考えることができた。</li> <li>・意外と殖えていることは安心と不安。</li> </ul>
④ 「生息動向の推移と個体数推定」	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計技術の活用からの分かりやすい推定であった。</li> <li>・数</li> <li>・統計のお話などがむずかしかったです。</li> <li>・増加傾向の根拠が示された。</li> <li>・但東町の集落で、クマが頻繁にしてもほとんど騒がないエリアがあります。昔からすみわけがされていたのかと思いましたが、そうでもないようで呑気な人が多いのでしょうか。</li> <li>・具体的でわかりやすかった。</li> <li>・大変参考になりました。</li> <li>・統計手法興味深く聞きました。</li> <li>・保護管理に必要な情報だと思う。</li> <li>・個体数推定について勉強になりました。</li> <li>・とても参考になりました。</li> <li>・推定方法が少し理解できた。</li> <li>・やはり増えていると思った。</li> </ul>

<p>⑤ 「行動特性と出没との関係」</p>	<p>56</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動特性は身近に感じられ分かりやすかった。</li> <li>・行動特性</li> <li>・非常にわかりやすくおもしろかったです。</li> <li>・豊凶による行動パターン興味深い。</li> <li>・大変参考になりました。</li> <li>・説明が分かりやすかった。</li> <li>・GPS調査の具体的方法も聞きたかった。</li> <li>・人がとらなければならない方策よくわかった。</li> <li>・判り易かった。</li> <li>・行動が良く分かるように説明されていた。</li> <li>・集落による取組の重要性を感じました。</li> <li>・とても参考になりました。</li> <li>・クマの学習能力、生態についてわかりおもしろかったです。</li> <li>・個体よっての違いがわかった。</li> <li>・学習放獣場所を再検討する必要があるのかなと感じた。 (奥山の必要性があるのか?)</li> <li>・対策に役立てたい。</li> <li>・行動特性がより詳細で理解しやすかったです。</li> <li>・とてもわかりやすかった。</li> </ul>
<p>⑥ パネルディスカッション</p>	<p>36</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人が持つ疑問点を知ることができた。</li> <li>・総合的な話が聞けてよかった。</li> <li>・話が具体的で得るものが多かった。</li> <li>・多面的に意見交換がありよかった。</li> <li>・とても参考になりました。</li> <li>・ディスカッションで学んだ事を説明出来そう。</li> <li>・総合的な生態系がわかった。</li> </ul>

### 3 その他ご意見は？

- ・研究者、都市部、クマ好き、行政の方などが集まったと思います。「地域」と言うならば、ぜひ但馬での開催を望みます。また、いただいたクマの資料等を但馬に置いて、広く人に知っていただきたいです。ありがとうございました。
- ・「共存」と言うならば、動物達が人里に出て来なくてもよい山(森)の再生が、今後長い間(次、次々世代)にも、一番の近道です。今日の報告の中にもあった様に豊作だと山に居てくれるのなら、その域を広げてやる事だと思う。センター名の通り「森林」を調べるだけでなく再生にも行動を広げる様にならないか？対処ばかりしていると根治解決につながらない。もっと長い視点で研究にして欲しい。これは、大切な水の問題にもつながるので重大な課題だ。
- ・ツキノワグマに関して何も知識がなかったのですが、大変解りやすい内容で、よくわかりました。共存を図る上で、もう少し他種類の(柿の木を切るなどの他)対策があれば・・・と思いました。里山再生と一口で言っても熊の立場、人の立場によって再生方法も違ってくるのか・・・と再考。
- ・シンポジウム中にノートがとれる照明が欲しかった。可能であれば、スライドの資料を配布いただければ、ありがたい。
- ・県境付近の行動を詳しく調査してほしい。
- ・専門的な話を多方面から伺うことができとても勉強になりました。農村の衰退が人里とクマとの境界線も崩してしまっただけではないかと思いました。今回のような機会もまた設けて頂きたいです。
- ・大変勉強になりました。
- ・糞等のフィールドサインによる個体数の推定についてはどうでしょうか。
- ・被害を最小にする個体数管理や適正個体数
- ・ツキノワグマの生態系での役割、バランスについて
- ・H22は猛暑でした。7~8月の大量出没は、森林内のサワガニ、昆虫数の量も検討すべきでは？ドンダリだけじゃないと思う。
- ・人と動物との共存をめざした思想と、地道に科学的な調査をつみあげられていること、さらに成果をわかりやすく発表され、一般市民を巻き込んだ議論をされていることにとっても感銘を受けました。すばらしいですね。今後も、日本の動物保護管理研究をリードしてってください。
- ・以前より、人間と動物の共存について考えるようになりました。
- ・このような研究もっと発表、充実し社会にフィードバックしてください。
- ・シンポジウムの報告書ができたなら、行政等ホームページで掲載願います。
- ・大変内容の充実したシンポジウムでした。
- ・ツキノワグマについてのシンポジウムへの参加は今回初めて。京都市に住んでますが兵庫県の現状や地名さえよく知りませんでした。しかし、様々な研究がなされているので兵庫県が全国のモデルになるのかと思いました。少なくとも京都ではまだまだクマの研究が進んでないと思います。京都府にも兵庫県のよう研究所、研究員の方がおられたらいいのですが・・・。
- ・いずれも見やすく、理解しやすいお話でよくわかりました。
- ・発表は兵庫県内のことであるか近隣県との生息域はかさなってるので近隣県のデータもほしい。
- ・人間が、熊、鹿、イノシシの住むところへ移り住み、動物達の食と住の環境を変えてしまったことから、熊と人間の接触事故が多発するようになった。熊が人里に出没しなくていい、熊の食糧が充分実る環境を回復することが大切。杉、ひのきを広葉樹に植えかえる。植生を抜本的にかえることが大切。河川の水質を守る。山の保水力を高めるには、杉、ひのきより、広葉樹(落ち葉が出る)を植えることの方が良い。広島や仙台のカキ(海の)の再生を実現したのは、川上の山林に植樹(広葉樹)をしたことによる。森林動物の研究の奥は深い。広い学際的に研究されたし。
- ・本県のワイルドマナジementは、シカならシカ、一種類のみを見ており、複数の種のかかわりあい注目されていない。もっと、鳥類や水棲生物までも含めた政策議論が必要ではないか。センターにそのような先鞭をつけて頂きたい。
- ・熊の捕獲(個体数調整)を行わないと鹿と同様の被害の拡大が予測されると思われる。特に人身被害が心配される。
- ・当面の被害対策のためツキノワグマの“保全と管理”を推進する施策と情報(特性)を把握して行くことは重要です。ただ、これは現在の土地のあり方を前提としたものだと思います。中山間地問題、里山、森林管理(荒廃)、水循環(法)、新エネルギーなど、幅広い観点から中、長期の施策(ビジョン)は、兵庫県としてお考えはないのでしょうか？
- ・大変良かったです。
- ・県内のクマに関する知見を聞くことができ、参考になりました。今後も同様のシンポを開いて頂けると助かります。
- ・会場が暗くメモ取りが出来なかった。
- ・次回はぜひ、但馬で行っていただきたいです。
- ・個々の話は面白かったのですが、それぞれの話が全体の中でどう位置付ければいいのか良く分かりませんでした。最初に全体像を見せてもらえるとより良かったかなと思います。
- ・クマが奥山で生きてゆけるよう、バランスいい植林を(ブナ、ミズナラ、山桜、コナラ等)行政だのみでなく、これからは

都会の人たちもつってボランティアをたくさんつって計画植林を実行ぜひぜひ希望します。  
今、地球環境が急激に変化して悪くなっていております。日本の森林もクマが住めるよう、私達人間が、植林をぜひして、クマを生かし、人間は先祖がしてきたように共にドングリの木を植え、わけあたえてゆける対策を急いで考えてください。

- ・ハイカーの注意点についても説明して欲しかった。
- ・クマの適正数とその管理方法は。研究を進めて下さい。
- ・クマの保全と管理、人との共生に向けた先進的研究、取組みに感銘しました。野生動物の研究の体制がしっかり出来ており、保全・管理に向けた今後の取組みに期待しています。
- ・貴重な情報を得ることができました。ありがとうございました。
- ・具体性のある内容で理解が進みました。
- ・クマの増加率もけっこう高い。どこでシフトすべきか。
- ・要因除去の大切さをGPSデータで説明され、分かりやすかった。
- ・評価基準を統一して欲しい。1, 2才の個体が捕獲されにくいことへの説明が欲しかった。夏のエサ環境についても考察が欲しい。
- ・具体的に簡潔にそれぞれまとめられて内容が把握できた。ただ、誰に向けてのシンポジウムなのかは疑問に思った。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・研究が深まっていると感じました。ありがとうございました。
- ・兵庫は進んですね。他府県でも広がって欲しい。(紀伊半島など)
- ・今回はツキノワグマに焦点をあててのことでしたが、他の動物についてもこのような機会があったらぜひ参加させて頂いて、生態系全体として考えられるようにになりたいと思います。
- ・科学的データが蓄積されてくることにより、人間の側で有効な対策をとりやすくなっていると思われま。望むのは一県の対策ではなく、より全国的な、そして根本的(国土の荒廃対策!!)な共存だと思います。動物が生きられない国土は人間も生きられなくなると思うからです。動物だけの政策だけではやはり一面的です。このデータを活かしつつ、国土デザインについても考えてゆきたいと思いました。とくに、土と水をどのように、かん養するかは、人間が生きていけるかどうかにも関係してくることだと思いますので、HPIはこれからも見させて頂きます。ありがとうございました。
- ・頑張ってください。
- ・現在蓄積されている科学的データがとてもよくわかるすばらしいシンポジウムでした。日本各地で研究センターのような施設が設立されるといいなと思います。
- ・非常に参考になりました。よかったです。遺伝子の話も聞きたいと思いました。
- ・5つのテーマを同時に扱ったところが良かったです。人の声もクマの声も聞こえてくる良いシンポジウムでした。他県でも参考にできる形での報告を期待しています。
- ・本日はありがとうございました。
- ・色んな角度からの話題提供ですごく充実した内容で素晴らしかったです。出没地域の人々の特に興味深かったです。本当に大変なんだなとよくわかりました。
- ・とても勉強になりました。
- ・シンポジウム、活動等について、もっとくわしく知りたいです。
- ・貴重な資料をたくさん拝見させていただきありがとうございます。最初に名誉所長の仰った金太郎の童話・童謡のようにクマと共生して行けたらなんて素敵だろと思いました。